



ツバキを楽しみながら庭園内を散策する来園者

# ツバキに夢心地

松花堂庭園に咲くツバキを楽しんでもらう「松花堂つばきウィーク」が3月4日～12日に開催され、色とりどりのツバキが来園者の目を楽しませてくれました。

## 写真撮影や散策楽しむ 松花堂庭園イベント



ツバキがあしらわれた庭園内の竹細工

同イベントは、ツバキの魅力を知ってもらおうと昨年に続き、同庭園が企画されました。庭園入り口では、竹にツバキをあしらった作品が来園者をお出迎え。庭園内の至るところにツバキが飾られ、来園者は気に入ったツバキを写真に収めながら、散策を楽しんでいます。また、期間中には、八幡市出身の木工作家・前田昌輝さんの作品を茶室に飾った「木の器展」や、市文化協会による作品展「アートフラワーと切り絵展(早春の響)」が開かれるなど、多彩な催しが開かれています。初めて松花堂庭園を訪れた中村郁子さんは「すてきな庭園内にいろんな種類のツバキがあつて楽しめました」と話していました。

## 介助犬実演「賢いね」

手足が不自由な人の生活を支援する介助犬について知る学習が3月2日、有都小学校で行われ、3、4年生計30人が参加しました。同教室は、介助犬による仕事の実演などを通して、子どもたちにその役割や接し方の注意を知ってもらおうと、NPO法人日本サポートドッグ協会と介助犬使用者の協力を得て実施。この日は、レトリバーという犬種の2匹が介助犬の仕事を実演。子どもたちは、落とし物を拾う、鳴っている携帯電話

### 有都小児童 役割や接し方学ぶ

話を持つてくるなどのほか、使用者の足をかまないよう丁寧に靴下を脱がせる様子などを見て「賢いね」と顔を見合わせて感心していました。また、まちで介助犬に出会っても、使用者に許可なく声をかけたり触ったりしないことや、体が不自由で困っている人に思いやりをもって接することの大切さについても学びました。佐野卓太くん(10)は「介助犬は、落ちていて人の言うことを聞いていてすごかった」と話していました。



床に落ちた水筒を拾って運ぶ介助犬

## まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 地球を立体投影

### 動かして観察



3月11日、さくらであい館で開館6周年特別企画「デジタル地球儀で地球を探ろう」が開催。地球を球体のスクリーンに立体的に投影するデジタル地球儀を使ったイベントに約115人が参加しました。企画は、淀川河川公園管理センターとNPO法人ダジック・アース・プロジェクト、京阪ホールディング

### さくらであい館6周年特別企画

重力と地球の活動の関係を学ぶ参加者。ス(株)の共催。地球科学講演会では、京都大学大学院理学研究科の風間卓仁助教が講師を務めました。参加者は、直径2.5mの球体スクリーンに投影された地球を観察。火山噴火や南極の氷の融解と重力の関係、地震の仕組みなどを学びました。また、パソコンを使ってデジタル地球儀を動かし、雲や海面の動きを知る体験や、事前に申し込んだ誕生日など「特別な日」の雲や地震の分布がわかるオリジナル地球儀を作る工作などにより、参加者は宇宙から見た地球の様子を楽しみながら観察していました。

## 今月のこの人

市制施行45周年松花堂昭乗イラストコンテスト 小学生の部

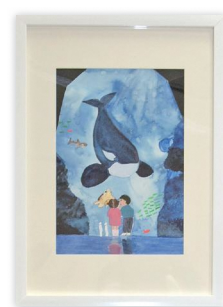
## 「ソラのすいぞくかん」最優秀賞



「市制施行45周年松花堂昭乗イラストコンテスト」で、小学生の部最優秀賞を受賞。橋本小学校2年生。追縁くん

「海の生き物が好きなので、理想の水族館を描いた絵で賞がとれてうれしい」と喜びを話すのは、橋本小学校2年生の追縁くん。追くんは昨年、市が「わくわく」をテーマに募集した「市制施行45周年松花堂昭乗イラストコンテ

スト」に応募。休日に家族で大好きな水族館に行き、シャチやカメを見てわくわくした体験を作品に表し、見事小学生の部で最優秀賞を受賞しました。作品は、海の色彩にこだわりがあり、追くんと妹が洞窟の中で、大きなシャチ



など海の生き物を見上げている構図が印象的。空から海に差し込む光が夜空のように見えることから「ソラのすいぞくかん」=写真=と題されました。

「6種類の青色の絵の具を使い、思い通りの色になるまで工夫した。さらに、塩を使って色をにじませ、海中に光が差す様子を表現した」と、作品のこだわりを笑顔で話していました。